

学校経営の基本方針

1 社会性育成の充実

人が人として社会生活を営む基盤である、「人権感覚を身につける」「あいさつをする」「時間を守る」「身だしなみを整える」「コミュニケーションを図る」などは、今後一層重要になると考える。このことは自分自身のことだけでなく、他者を意識しての行動になる。「道徳の時間」を中心に据えた「心の教育」との関連により、「よりよい生き方」について考える力の育成につながると考える。  
変化の激しいこれからの時代に、自分・他者・社会的事象・未来をしっかりと見つめさせることによって「物事をしっかりと考え、正しく判断し、行動がとれる生徒」を育成する。

2 心身の健康、体力の向上、  
基本的生活習慣の確立

社会性や学力を育む基盤として、非常に重要な役割を果たすものであると捉える。この内容が不十分だと「社会性の育成」「学力の定着」は図れない。  
「心も身体も健康的な生活を営み、よりよい基本的生活習慣を身につけた生徒」を育成する

3 基本的学力の定着

「よりよい社会生活の実現を目指す」「人間性を高める」「自ら進路を切り拓く」「変化の激しいこれからの時代生き抜く」ためには、学力の定着は非常に重要である。「自分の生き方と向き合い、あきらめず目標に向かって学びに向き合う生徒」を育成する。

【目指す学校像】  
「生徒の笑顔あふれる学校」

- ・学校に集うすべての人の人権が守られ、安心・安全な学校
- ・社会規範を遵守した学校
- ・生徒が自慢できる学校（誇りに思える学校）
- ・保護者・地域に信頼される学校

【目指す生徒像】

- 「仁愛の心をもち、社会性を身につけた生徒」
- ・豊かな感性を身に付け、命と人権を一番に考え行動できる生徒
- ・目標をもち、進んで学ぶ生徒

- ・自分の行動を律し、社会規範を遵守する生徒
- ・判断力を身に付け、責任ある行動ができる生徒
- ・体力の向上に努め、健康で安全な生活を営める生徒

【目指す職員像】

- 「カウンセリングマインドを身に付け、自己研鑽に努める教職員」
- ・教育公務員としての自覚と責任を持ち合わせた教職員
- ・生徒一人一人の心情・環境を理解し、生き方指導ができる教職員
- ・生徒のための社会モデルとなる教職員
- ・批判的同僚性を身に付け、学校課題の解決に向け協働できる教職員

令和3年度 重点目標

徳 認め合って生きる生徒

- 【達成目標】
- ① 「自分自身の言動に気を付け、誰かのために行動することができた」と答える生徒が90%以上になる。
  - ② 「差別やいじめは許されず、差別する側・いじめる側に問題がある」と答える生徒が95%以上になる。
  - ③ 「道徳の授業を通して、新しい発見をしたり、考えが深まったり、自分の考えを再確認することができた」と答える生徒が90%以上になる。
  - ④ 「学校や地域の行事等を通して郷土のよさを感じたり、地域のためになることを意識したり行動できた」と答える生徒が90%以上になる。

その結果

- 【育てる活動】
- ① 「誰も排除せず、誰かのために行動できる人柄」の大切さを生徒に語ったり、考えさせたりする機会を設ける
  - ② 「生きるIV」を活用した授業では、教師自身の生き方や考え方を語ったり、人権感覚を高めたりする声掛けを行う。
  - ③ 年間指導計画に沿って道徳を行い、生徒の思考を高め、心を耕す。
  - ④ 郷土についての話題や考える材料を提供し、郷土を意識させる。

- 【支える活動】
- ① 「誰も排除せず、誰かのために行動できる生徒」を育むために、教員間で生徒についての情報交換や相談を行う。
  - ② 人権教育、同和教育の授業について、事前または事後の検討を行う。
  - ③ 「考え、議論する道徳」の実践に向け、授業内容の検討を行う。
  - ④ 教員間で情報交換を行うことで、郷土に関わる職員の意識を高める。

体 鍛え合って育つ生徒

- 【達成目標】
- ① 保健体育や部活動を通じ、意欲的に運動に取り組み体力の向上を図る生徒が80%以上になる。
  - ② 給食後の歯磨き実施率が90%以上になる。
  - ③ メディアの正しい使い方を理解し、実践できる生徒が80%以上になる。
  - ④ 感染症拡大を防ぐために、手洗いや換気を積極的に行う生徒が80%以上になる。
  - ⑤ 規則正しい生活習慣、衛生的な身だしなみに気を配ることのできる生徒が80%以上になる。

その結果

- 【育てる活動】
- ① 積極的に運動に親しみ、活力ある身体作りを推進する
  - ② 人生百年時代を意識し、8020運動を通して好ましい生活習慣を身に付けさせる
  - ③ 正しいメディア接触の習慣づくりを推進する
  - ④ 手洗いや換気の習慣づくりを推進する。
  - ⑤ 望ましい衣・食・時間の習慣づくりを推進する

- 【支える活動】
- ① 部活動や体力テストの実施を通じ、自身の課題や目標をもたせる。
  - ② 歯磨き習慣定着のための各種取組、広報、歯磨き道具点検等を行う。
  - ③ メディアリテラシーをテーマに集会等を実施する。
  - ④ 毎時間積極的に換気を行うよう指導する。
  - ⑤ 生活アンケートによる健康と生活状況の把握、保健だよりでの情報提供を行うとともに、個に応じた指導を行う。

知 教え合って学ぶ生徒

- 【達成目標】
- ① 授業が「楽しい」「わかる」など、肯定的に答える生徒の割合が85%以上になる。
  - ② 学び合いの授業を通し、多様な考え方に気付き、自己の考えを深め、次の学習に向かうことができる生徒が75%以上になる。
  - ③ 家庭学習を一日平均1時間以上行う生徒の割合が75%以上になる。

その結果

- 【育てる活動】
- ① 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を実感させる授業づくりを推進する
  - ② 「学び合い」の手法を取り入れ、他の意見や考えから学ぶ授業づくりを推進する
  - ③ 進路実現を意識させ、進んで家庭学習に取り組ませる

- 【支える活動】
- ① 普段の授業の取組をもとにした研修会を行う。
  - ② 教師全員が授業公開を行い、授業改善に生かす。
  - ③ 自主的な家庭学習のやり方について、学年ごとに指導する機会をもつ。

小学校との連携：「行動連携」「情報連携」「目標連携」  
○小中連携協議会事業の実施：教務主任部会、学力向上部会、生活指導部会、特別教育部会、健康・体力向上部会、道徳部会 ○学習強調週間の連携・推進 ○早寝早起き朝ごはんチャレンジの連携・推進 ○メディアコントロールの連携・推進

家庭との連携：各家庭・PTA活動  
○家庭での生活習慣づくり ○学習強調週間の実施 ○早寝早起き朝ごはんチャレンジの実施 ○メディアコントロールの実施 ○各種頼りの発行による情報連携・推進

地域との連携：東中区すこやかな子ども育てる会・東中学校後援会・区長会  
○キャリア教育の推進  
○社会性育成の推進

上級学校との連携：キャリア教育の推進  
○県内大学、専門学校への訪問実施  
○高等学校体験入学の積極的な参加  
○社会性育成の推進

キャリア教育を基盤にし、小中連携した教育を推進する

【キャリア教育を中核とした共生と自立・自律する生徒の育成】

【職員研修の推進：希望や目標をもち、よりよく生きる力を育む学級活動】  
・他と積極的にコミュニケーションをとる能力を高める・自治的能力や主権者として積極的に社会に参画する力を高める・目標の達成経験をさせることで、自己肯定感を高める

しばたの心継承プロジェクト「ひとが第一、ひとが大事 新発田の教育」の推進  
～ 人とのふれ合い、体験的な活動の充実を図り、ふるさと新発田への愛着と誇りを育む ～